

東京オリンピックが開催された1964年10月に東海道新幹線は開業し、今年でちょうど50年の歳月が経過しました。同年生まれの私は、生まれ年を「東京オリンピックの年です」と説明していましたが、就職後はいつしか「東海道新幹線開業の年です」と説明するようになっていました。東海道から始まった新幹線は、山陽、東北、上越（秋田）、（山形）、北陸（長野）、九州が既に開業し、来年には北陸（金沢）、再来年には北海道（新函館北斗）と順次開業が予定されています。これらの新幹線はビジネスはもとより観光や行楽に欠かせない交通機関の一つになっています。また、近年、諸外国における高速鉄道の建設計画が報道されていますが、日本で培われた新幹線技術が世界の

高速鉄道の発展に貢献できればと思っております。

本号では、新幹線の開業に欠かせなかった各分野のキーテクノロジーや、開業後さらなる安全性・快適性・利便性の向上に向けた技術を紹介するとともに、新幹線の開業に向けて先駆的な研究・開発を担っていた研究者への聞き取り記録や当時の写真などを紹介し、専門の方以外にも十分に楽しめる内容となったと思っております。

さて、次号の特集は“音”と“振動”をキーワードに、音や振動を低減させる技術のみならず、音を伝える、音と振動を利用するなど、音や振動に関わる研究・開発の一端を紹介します。次回もお楽しみにお待ち下さい。(S.I.)